

きんたろう倶楽部の 目指すこと

私たちは、人手が入らなくなり、放置された富山の森や山に無関心ではいられません。かつて里山は、都市にエネルギーや資源を供給して市民の生活



子どもたちも植樹に参加

を支え、同時に山の人びとの暮らしの基盤でもありました。いまでは、すっかり生活様式が変わり、森や山に人の手が入らなくなり、新や炭を採った雑木林、スキの植林地、竹林、田や畑までが放置され、里山は数山と化しました。過疎化、高齢化が進み、人影も途絶えつつあります。山に暮らす動物たちとの関係も変化しました。古来から日本人が大事にしてきた自然を敬う気持ちや手入れが忘れられ、人と自然のバランスが崩れたのです。森が荒れば、都市も廃れることは歴史が証明しています。森とのつながりがなくなった都市では、人間関係に疲弊した不幸な出来事も頻発しています。

新しい森の再生と活用の仕組みを確立し、いかに森を元気に、人を元気に、



下草を刈り間伐すると森が明るくなる

きんたろう倶楽部の行動ビジョンは、次の6つを柱としています。

1、森づくり
森に関心を持つさまざまな人たちとネットワークを組み、森に人びとをいざない、楽しく知恵と汗を出して、元気な森づくりをします。

2、人づくり
森は私たちヒトの故郷です。森の緑、空気、音、土の感触、匂い、味、どれも人が元気にします。より多くの人が、森に出かけるように、森の楽しさを知るように、奥深い森の仕組みを学べるように、森に住むように、そして元気が出るように、人びとへの啓発やリーダーの育成を通して、人づくりをします。

3、地域づくり
山と街を元気にするために、森と街を行き交う人や物の交流を促進する「山と街の参勤交代」の仕組みを作り、山や里、そして街に住む人びとが、元気になる地域づくりを進めます。

4、仕組みづくり
私たちの活動を元気にするために

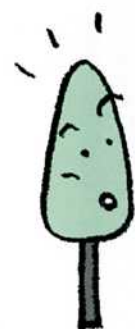
5、情報づくり
新しい視点で森の幸を街に届け、街の支援を森の事業につなげる。さまざまな生業（なりわい）づくりから新たな森の仕事をおこし、森と街の間で経済が循環する。このように、自然の恵みを生かしながら、活動が元気で持続できる仕組みづくりをします。

6、組織づくり
人と人のつながりを元気にするために
木の不思議、森の楽しさや生態の奥深さ、森と人との結びつきなど、楽しく学んだものを多くの人に伝えていきます。また、活動の状況を発信して、多くの人の声を吸収し、人と人のつながりを元気にし、次の発展へつなげる情報づくりをします。

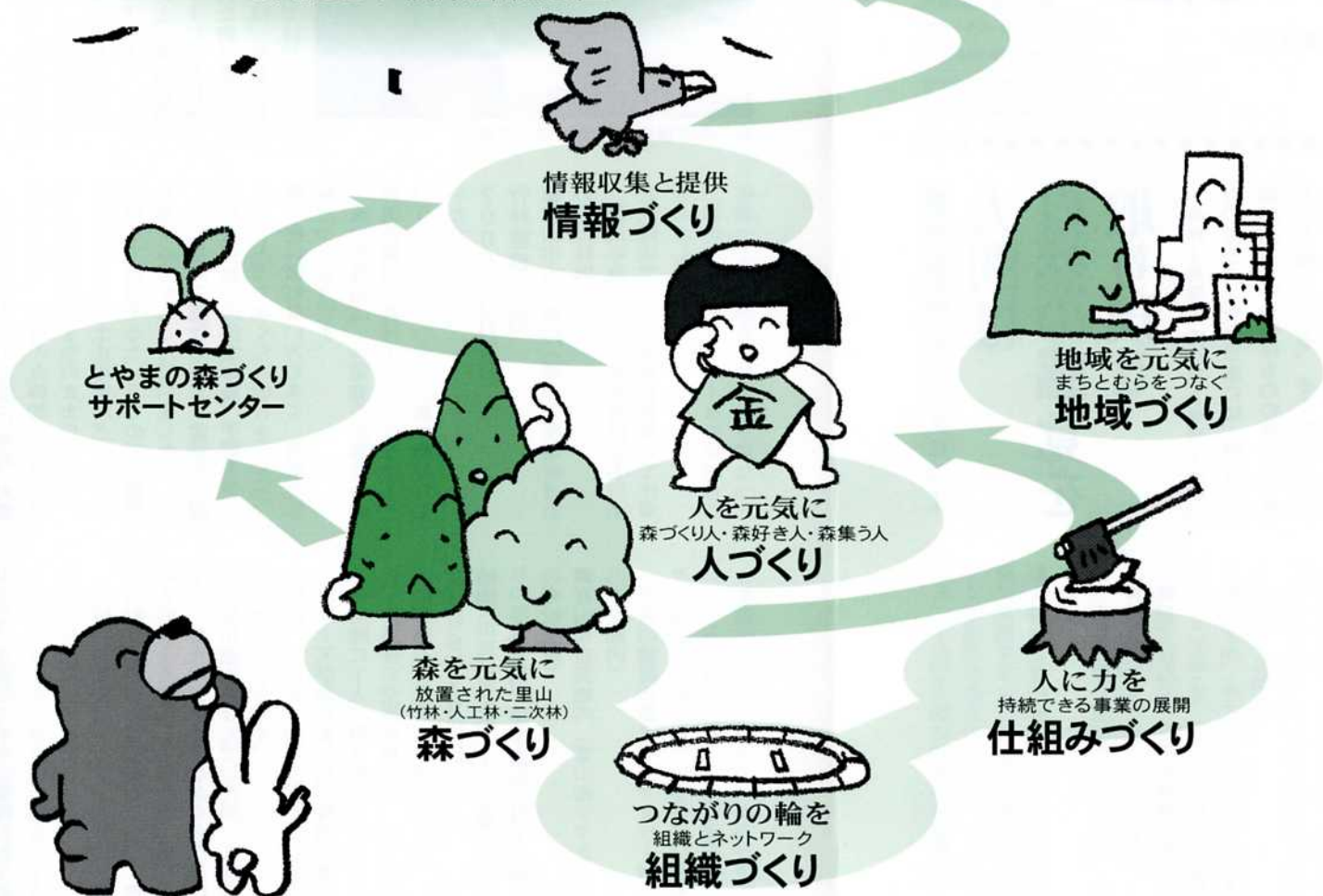
元気を長続きさせるために
活動を常に活性化させるためには、しなやかな調整機能と、しっかりと運営が必要となります。あるべき姿（ビジョン）を明確にし、具体的な目標と計画をつくり、効果的に実践し、それを検証し、改善して次へつないでいく。こんな経営を行える組織づくりをします。

■森づくり計画

	春(4月下旬~6月上旬)	夏(6月上旬~9月上旬)	秋(9月中旬~11月下旬)	冬(12月~3月)
森林整備	広葉樹などの稚樹採取と育苗管理	草刈り	つる切り、間伐、低草木仮払い、種子集め、落ち葉拾い、植樹	リース、門松づくり、稚苗養生、ほだ木づくりときのこの菌入れ
竹林整備	間引き、筍採り、竹加工、竹炭	整備、竹加工、竹炭	整備、竹加工、竹炭	竹加工、竹炭
イベントなど	森づくりのリーダー養成、山菜採り		森の食祭などのイベント	かんじき遊び、雪遊び、意見交換、研修会



きんたろう倶楽部はやるぞ きんたろう倶楽部概念図



きんたろう倶楽部

きんたろう倶楽部のロゴ、シンボルマークは公募しました。募集作品のなかから野口富美子さん(静岡県御殿場市)の作品が選ばれました。

シンボルマークは、里山再生の「山」をイメージしました。山の目は、生きている山の目であり、山に住む動物の目でもあります。山の背中は、森を表しています。

(野口富美子)

森がないと、
ぼくたち困ります。



私たちは森づくりを応援します。

越中から、日本の中心から、情報発信。

北日本新聞

婦負森林組合

富山市八尾町梅苑町1-95-1

木材加工センター

富山市八尾町城生32

立山山麓森林組合

富山市馬瀬口86

富山造園業協同組合

富山市今泉北部町1-1 寺垣ビル208号

YES! GAS

Yes! Natural

GAS Energy Communication 日本海ガス

http://www.ngas.co.jp